

マリンストアニュース

YAMAHA MARINE STORE NEWS

No.50 '86-3



皮膚感覚スポーツ=ダイビング
海中遊戯者いま急増中。

The background of the page is a collage of various diving-related logos and brands. Notable logos include:

- NAUI (National Association of Underwater Instructors)
- SDIA (Scuba Diving Instructors Association)
- CMAS (Competition Masters in Aquatic Sports)
- W (World Underwater Federation)
- Tabata Diving Equipment (Authorized Dealer)
- Professional MSc Corp
- Lexik
- Sunfan (Marine Sport's Wear by Tank)
- Sea Adventure Club (海人)
- Nautilus
- Maripic 84
- WORLD UNDERWATER FEDERATION
- A.D.S. Japan
- OGASAWARA DIVING CLUB
- FEJAS DIVIA CMAS
- SEA LION
- ENTRY DIVING HOUSE
- SEA ADVENTURE CLUB
- AMBER MITSU DIVING
- BITC
- MODERNA MITSU DIVING
- THE SEA
- JP SDIA
- mda Japan
- FIESTA PRO DIVE SHOP
- DOIT! in the water.
- ORC
- S. Japan
- GA
- BLUE
- FLIPPER
- SCUBA DIVING TEAM
- MAKING THE QUALITY DIFFERENCE IN SCUBA DIVING
- Hamasen
- Diving School
- DOV'S TEAM OF JAPAN
- PROFESSIONAL
- PROD OF MSC CORP
- LEXIK DIVING TEAM & SHOP
- THE SEA
- JP SDIA
- mda Japan
- OGASAWARA DIVING CLUB
- FEJAS DIVIA CMAS
- NAUTILUS
- MARIPIC 84
- WORLD UNDERWATER FEDERATION
- A.D.S. Japan
- OGASAWARA DIVING CLUB
- FEJAS DIVIA CMAS
- SEA LION
- ENTRY DIVING HOUSE
- SEA ADVENTURE CLUB
- AMBER MITSU DIVING
- BITC
- MODERNA MITSU DIVING
- THE SEA
- JP SDIA
- mda Japan
- FIESTA PRO DIVE SHOP
- DOIT! in the water.
- ORC
- S. Japan
- GA
- BLUE
- FLIPPER
- SCUBA DIVING TEAM
- MAKING THE QUALITY DIFFERENCE IN SCUBA DIVING
- Hamasen
- Diving School
- DOV'S TEAM OF JAPAN
- PROFESSIONAL
- PROD OF MSC CORP
- LEXIK DIVING TEAM & SHOP
- THE SEA
- JP SDIA
- mda Japan
- OGASAWARA DIVING CLUB
- FEJAS DIVIA CMAS
- NAUTILUS
- MARIPIC 84
- WORLD UNDERWATER FEDERATION
- A.D.S. Japan
- OGASAWARA DIVING CLUB
- FEJAS DIVIA CMAS
- SEA LION
- ENTRY DIVING HOUSE
- SEA ADVENTURE CLUB
- AMBER MITSU DIVING
- BITC
- MODERNA MITSU DIVING



商品が

お客へ

顔を向ける



東京の下町を散歩しました。佃島は江戸時代の漁師町。いまは佃煮（つくだに）屋の「元祖」が何軒か軒をならべています。お隣の月島には大正時代から機械工場地帯が発達し、その周囲に住宅街がひろがりました。どちらも古くからの庶民の町で、街路はひとつこい表情をたたえています。月島一丁目から三丁目にかけて、かなり長い商店街がつづきます。みんな間口二間の小さな店舗ばかりですが、店内が狭いこともあって、商品は店先に積み上げられ、整然と並べられており、その一つ一つに丁寧に値札の付けられているのが、鮮やかな印象を与えます。つまり、商品が、お客の方にはっきり顔を向けて、親し気に語りかけるのです。そして、この町には、お客と店の人のあいだに、なごやかな冗談をやりとりしながら商売をする「対面販売」が生きつづけています。



皮膚感覚スポーツスクーバダイビング

海中遊戯者、いま急増中

今、女子大生がやってみたいスポーツの第5位にあるのがダイビングです。海中の神秘、異次元体験……。そのままブティックにも使えそうなダイビングショップが街に並ぶ今日、25歳から35歳、特に女性の人気を集めている急成長スポーツの魅力はどこにあるのでしょうか。ちょっと海面下をのぞいてみました。



鮫は泳ぎながら体側にあるエラに海水を出し入れする。そこで体内に酸素を採り入れるのだ。常に動き続けて、エラに海水を通していきなり生命の維持ができない。だから、鮫は眠るときは水の流れのあるところを選ぶ。人間の遠い祖先は海からやってきたという。しかし残念ながら、人間にエラは無い。陸上で息をためてみても、我慢できるのはせいぜいが二分程度。水の中で呼吸できない辛さは風呂やプールで体験できる。悪友にいきなり頭を押し付けられて必死にもがいたのは、幼い日の思い出のひとつだ。

「何が採れるんですか?」「何時間潜つていられるんですか?」ダイビングを知らない人から、よくそう聞かれるのだ、とベテラン・ダイバーは苦笑する。

ゴム製の黒いウェットスーツに身を包んだスタイルは、精悍な海の狩人。何時間でも潜つていられるような、そんな印象を確かめる。スクーバダイビングの場合、そのフィールドは海面下であって、決して陸からの目には曝されることはないのだから、これらも仕方の無いことかもしれない。

スクーバダイビングのスクーバ (SCUBA) とは、Self-contained underwater breathing apparatus の頭文字で、つまり、海面下呼吸装置というような意味。アクアラング (水肺) はその商品名だ。SCUBA を用いない、スキングダイビングとは区別される。

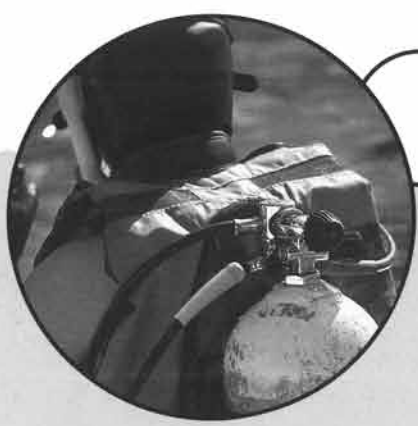


水中メガネ、シノーケル、フィンがダイビングの基本用具で、三点セットと呼ばれる。スキングダイビングはこの三つを使っている。スクーバダイビングではこの他に、圧縮空気

(酸素ではない)が詰め込まれたタンク、そのタンク内の高圧空気を減圧して適正な圧力に調整し、供給してくれるレギュレーターと、これに付属してタンク内の空気量が分かる残圧計、水深を計る深度計、海中で方向を知るためのコンパスがひとつに納まったパネル、スタビライジングというベストタイプの浮力調整具、ウェイト、スーツなどが必要な機材一式になる。それら一切合計で約二十kg。陸上ではかなり重労働を強いられる重さだ。

カード時代!? Cカードは安全のため

ダイビングと同じように、スクーバダイビングにも「免許」は必要ない。ダイビングでいうライセンスとは認定証のことで、通称Cカードと呼ばれる。CカードのCは certification のCだ。Cカードは法律などで定められた免許ではなく、各潜水指導団体がそれぞれのカリキュラムに基づいた教習を終え、技術を身につけた者に対して独自に発行している。そんなわけで、Cカードを持たないとスクーバダイビングができないわけではないが、機械を正しく使いこなすことがとても重要な



—生命に関わる—スポーツだから、正しい講習を受けることが大切で、適正な技術を身につけているという証明がCカードなのだ。ダイバーの安全を考えてのシステムだといえる。Cカードは技量や経験によっていくつかの段階に分けられている。その名称もランクも潜水指導団体によって異なるが、おおよそ五段階でいどにクラス分けされ、難易度も同じようなものだ。スクーバダイビングを始める人は、この初級ライセンスをまず取得することになる。



都内のあるダイビングスクールの、昨年一年間の受講者は四〇〇名を数える。そして、その約半数は女性だという。このスクールでは、二泊三日の合宿で初級のCカードが取得できる。宿泊・食事・機材レンタル料、すべて含んで七万円弱の短期集中コース。とても三日間は休めないという人には、平日の夜と週末を利用したコースが用意されている。こちらの料金は七万円より少々高くなる。

こうしたスクールが最も多く利用している関東周辺の施設のひとつに、伊豆海洋公園がある。二月の晴れた日曜日に海洋公園を訪ねてみた。

伊豆海洋公園は東伊豆のちようどまん中あたりにあって、公園からは伊豆大島、利島、そして新島が霞んで見える。大島の三原山の頂上付近は、昨日の雪で、まるで白い帽子を被っているようだ。

駐車場にはダイビングスクールやショップ名がペイントされたワゴン車やバンが並んでいる。どのマークも凝ったデザインだ。ヤシの葉影がワゴン車のボディに縞模様をつくって、その脇では機材をチェックする者、着替る人たちがテキパキと動き、寒さに背を丸めている姿などひとりも見えない。こは別世界、これが二月の風景だろうかと思いたくなる。

澄みわたった空のように、冬のは透明度がよくダイビングにもってこい、とはいっても冷たい。見ているこちらが身震いしてしまう。ダイバーの世界には冬はないのだろうか。

伊豆海洋公園を利用するのは主に東京を中



伊豆海洋公園。50mプールと円筒型の潜水用プールが見える。右手端の磯がダイビングのエントリー場所。タンクをレンタルすると、このエントリー場所まで運んでくれる。



プライベート・ダイバー。責任者1名が潜水登録者カードに記入したうえで施設を使用する。安全対策のひとつではあるが、責任はもちろん各個人にある。

心とした関東エリアのダイバーたちで、今日も百名余のダイバーが来ているという。昨年の利用者数は四万五千人、一昨年が三万八千人。「今年は五万人を超すでしょう」と責任者の西村さんは予測する。

伊豆海洋公園がダイビング業務をスタートしたのは昭和三十九年。もともと東海大学の依頼を受けダイビング関係の研究を続けてきたという歴史をもつだけに、その設備は充実している。

海水を入れてある五十mプール、深さ四mと四・五mの潜水用プール、タンクに空気を充填する機械室、温水シャワー、更衣室、食堂、宿泊施設など、現在の形にまで整ったのは昨

汚さない、獲らない、どるのは写真だけ

残すのは足跡だけ、とるのは写真だけ、というの、どこかの観光名所に立てられている看板の文句だが、それに言い表わされているモラルはダイバーの世界にかなり浸透している。スポーツダイバーは、海を楽しむのであってそこに糧を求めるのではないから、当然のことかもしれない。

年四月のことだが、この三月末にはさらにシヤワールーム、更衣室、トイレ、洗い場が完成、設備はより充実される。

この利用者は大きく三つに分類できる。①ダイビングショップによる講習(スクール)、②伊豆海洋公園のダイビング・スクール受講者、③プライベート・ダイバー、たちだ。

伊豆海洋公園は海に面しているから、もちろん海でのダイビングも楽しめる。午前中はプールで講習を受け、午後は海での実習というスケジュールを組むスクールが多い。他にもハウツー・ビデオなどの機材も完備しているから、ダイバーにとっては、まさにいたれりつくせりの環境といえるだろう。

んとした協約に基づいてダイビングポイントとして使用できるところを増やしてゆくことは、ダイビングをますます普及させるうえで、最も優先されるべき項目だと思う。

地元観光協会、漁協、ダイバーの三者による誘客策としてのダイビング施設の運営成功例のひとつが、この伊豆海洋公園で、これまでも各地から視察団が訪れている。

ダイビングポイントとして認められているところは、施設が充実している、ダイバーがリラックスできる、そうした環境が確保されていることで、これは、即ダイバーの安全にもつながる。

新しくダイビングポイントを開設するにあたって、問い返されるのは、ダイバーのマナーだろう。

「海は汚さない、獲らないというのは今やダイバーにとっては常識になっています。スクールのときから徹底して教えていますから、Cカード所有者に限っては絶対大丈夫」とインストラクターは異口同音にいう。また、漁師さんにはいっお世話になるかもしれないのだから、という気持ちも、ダイバーたちに共通する感情にまで育っているようだ。



ツアー、リゾート型ダイビング花盛り

スクーバダイビングは、その回数を重ねていくうちに、ダイビングそのものが「目的」から「手段」へと変わってゆく。

ダイビングスクールに通ってライセンスを取得してからは「潜る」という行為にたまたま夢中になる。それが、使用タンク五十本（キャリア平均二、三年ごろ）あたりから海の中に興味を持つようになる。水中に慣れ、機材に慣れ、余裕ができて周囲を楽しむことができるようになるのだ。

魚などを観察する「バードならぬフィッシュウォッチ、雑誌などでよく見る水中写真、沈船（レック）ダイビング、海底洞窟（ケーブ）ダイビングや魚の餌付けなど、スクーバダイビングを手段として、そのフィールドはさまざまに広がってゆく。むしろ、そうした方向に進まない、ただ潜っているだけでは、行き詰まってしまうとも言えるだろう。

ライセンス取得（スクール）→機材購入（販売）→ダイビングを手段として楽しむ（クラブ）、というダイバーのこうした流れを、ダイビングショップは巧みに活用し、時には需要をつくりだして客離れの防止と、愛好者拡大を図っている。

ダイビングの旅をブラスしたダイビング・ツアーも年々盛んになっている。ライセンスを取るなら、南の島の珊瑚や色鮮やかなトロピカルフィッシュにとり囲まれた海のほうがはるかに魅力的だし、ダイビングはボードやヨットのホームポートとはもともと無縁なスポーツなのだから、そのほうが自然なのかもしれない。

「今、人気のスポーツを完全マスター」という見出しのついた旅行代理店のパンフレットには、ダイビングをトップにボードセーリング、ヨット、テニス、乗馬と続いている。ヤング層の人気のほどもこの順番通りなのだ。

ダイビングの項を開いてみる。伊豆海洋公

園での一泊二日のベシックダイバーコースをはじめ、沖縄コースには通常のツアーに、ポイントレンタル料やタンク4本、ダイビングガイド料などが含まれている。「カナツチ娘も、一人前のダイバーに変身。」このコピーにもうたわれているように、東京のダイビングスクール同様、やはり女性の参加が多いという。

素材の進歩はもちろんだが、ウェットスーツをはじめとする道具のデザイン、特にカラーリングが多種多様になってきたのは女性の進出によるところが大きい。機能一辺倒で、ウェットスーツといえば黒だった世界が、ボードセーリングなどの影響もあってカラフルな変身ぶりをみせている。

伊豆海洋公園の西村さんによれば、ダイビングに女性の進出が目立ってきたのは、昭和



沖縄県・石垣島で活躍するダイビングポイント「マックス5世」(DY-50Aをベースにしたダイビング仕様)。マイポート・ダイビングの時代を予感させる。



ユーザーの遊び心をも満たしてくれるそのセンスだ。都内近郊だけでも百数軒あるというダイビングショップも、ユーザーに選ばれた店だけが残っていく時期にさしかかっているともいえるだろう。

スクーバダイビングは二人以上で潜るのが原則だ。潜る前に機材が正しく装着され、作動するかなどをチェックしあい、トラブルを未然に防ぐために、あるいは迅速に対処するためのものだ。これをバディシステムという。

しかし、これはあくまで「安全」を第一目的とした約束事であって、スクーバダイビングは本質的には個人スポーツだ。情報社会といわれてひさしい今日、これほど「個」に徹するスポーツは他にない。「見るもの触れるもの、海の中ではその全てが情報で、情報をキャッチしたら判断に迫られる。その判断が即、自分の身に影響を及ぼすんですね。フィッシュウォッチや水中写真など楽しみ方はいろいろありますが、異次元世界で自分を生かしていくための判断の連続。そうしたメンタルな部分がダイビング人気の秘密かもしれません。」ダイビングキャリア十六年、西村さんはそう語ってくれた。

ダイビング人口三十万人、今やボードセーリングをしのぐ勢いともいわれるほどの人気スポーツ。ボードダイビング時代の到来も、そう遠いことではないだろう。

取材協力

●西村 周 (31歳)

東海大学海洋学部卒。現在伊豆海洋公園ダイビングセンター(☎0557-151112)の統括部長とチーフインストラクターを務め、使用タンク本数は年間四百本を数える。

●岩村博史 (32歳)

ダイビング専門誌「ダイビングワールド」の編集長を三年務めたのち、今年一月から㈱ダイビングツアーセンター(☎03-401-4221)の企画室勤務。

五十九年夏からとのこと。それによるダイバー人口の増加は、ショップ(スクール)の乱立を招いた。以前は、いわばのれん分け的に広がってきた業界だったのが、それを契機に「ぼつと出」のショップが多くなってきたのだ。ユーザーの立場からすると、ショップを選べる、自分好みの店や団体を選ぶことができることにもなった。

しかし、選ばれる側——ショップやスクールにその意識があるかどうか。ショップの乱立は、インストラクターの質にも影響を与えた。インストラクターに求められるのは高度なダイビング技術に基づいた指導力に加え、

ゴルフオンウィークは趣味と実益をかねる家族旅行へ

北海道松前郡松前町 種市商会 / 種市峰明さん

ワンマン営業でがんばっているので、休みをとるのがむづかしく、好きな釣りに出るのもなかなか思うにまかせない、というのが種市さんの日々。そこで、年にいちど、五月の連休を利用して、一泊二日か二泊三日の家族旅行に出かけるのが、いま種市さんの最大の楽しみになっています。この時はおばあちゃんに留守番をお願いして、峰明さん、光代さん夫妻と誠くん(中学一年)、豊くん(小学六年)、稔くん(小学三年)、直人くん(小学一年)、の六人連れで出かけます。去年は大沼へ一泊二日旅行。今年は松前、函館の海岸沿いに走って恵山岬まで二泊三日旅行をする計画です。

「わたしには趣味と実益をかねる旅行です。途中で各地の海岸を見てまわって船のつくりや機装を見ること、また、あちこちのマ



三隻目の手作りボート完成

千葉県館山市船形 高尾商会 / 高尾音三郎さん

ボートの自作が趣味の高尾さんは、このほど三隻目を完成させました。十五フィートの二人乗りランナバウトです。

「以前は、なにからなにまで私一人で作りましたが、今回はよい相談役がいました。昔ボートレースをしていたお客さん——いまは仲の良い友だちになっていただいています。彼を相手に、船底形状などいろいろと話し合っ、新しい楽しみが増えました。でも、やはり一番ワクワクするのは、初めてボートを水に浮かべて走らせてみる時ですね。」

高尾さんがこのボートづくりに着手されたのは昨年の夏、デザインを決め、雄型をつくり、FRPを積層する……、すべて手づくりの仕事だが、安全への対策も十分。もちろん船検は全艇が合格しています。



歌謡舞踊の十八番は五木ひろしの『長良川艶歌』

岩手県釜石市平田町 前川輪店 / 前川イネ子さん

大好きな五木ひろしの『長良川艶歌』に合わせて踊るときが、イネ子さんの最高に楽しい一刻です。出雲流の歌謡舞踊で、芸名は京歌扇。五年前に友だちと誘い合い、先生について教わるようになり、先団体慰安旅行のとき、宴会で余興の歌を歌うのがいちばん苦手。そこで、カラオケに合わせて一曲踊ってご覧に入れようというのが、イネ子さんの隠し芸になりました。はじめてみんなに披露したときは、大受け。すっかり自信をつけたのが励みになり、毎月稽古は欠かしたことがあります。

帰り道はいつもケンカになるけれど

茨城県東茨城郡大洗町 フジマリソ商会 / 藤枝和子さん

「主人はカラオケが好きで、自称プロ級です。六年ほど前、友だちのみなさんとお花見に行った時、『奥さんも上手なんだろう、歌わなきゃ』とおだてられ、とうとう

恥ずかしさをこらえて歌いました。でも、もともとキラリな方じゃなかったんですね私も、そのあとすぐカラオケセットを買って、毎晩のように猛練習。

主人はいまでも月に四、五回、いい調子にうたってくる機会があるのですが、三年ほど前から、なぜか私もそういう場所に連れていってくれるようになりました。いまでは月に二、三度、いっしょに出かけます。暹美二郎や五木ひろし、北島三郎の歌が主人は得意、とくに『終着駅は始発駅』はかなり長いこと主人の十八番になっています。私が最近凝っているのは『浮草情話』。浮気の唄なんですけどね……。」

二人とも目立ちたがりや。どっちがうけていたかで帰りはいつもケンカになります。でも主人といっしょだから夜道も安心だし、私には、いちばん楽しいひとときです。」





今月のテーマ

マリナーナづくりにも挑戦した マリンストアさん

お客さんのボート保管にどのようなようにして対応すればよいか、各地でマリナーナ経営の光っているマリンストアさんを訪ね、その施設の内容と特色を紹介します。また、武器としてのマリナーナづくりか、レジヤースポットを目指すマリナーナづくりか、それぞれのストアの経営姿勢に注目してレポートをまとめました。

精魂こめてつくり上げ、 施設のすみずみにまで サービス精神をこめる

●瀬戸マリナーナ／井上博文さん 香川県三豊郡詫間町

クラブハウスと工場、クレーン



精魂こめてつくり上げたマリナーナの数々の施設、設備のなかでも、井上さんのいちばん自慢したいものはボートの昇降クレーンと移動用船台です。どちらも井上さんが自分で設計しました。

まずクレーンは二トン型トローリー四基で吊上げる方式。吊上げられた艇体の前後左

井上博文、初子ご夫妻



ボート置場全景



右の傾きはボタン操作ひとつで簡単に修正できます。そしてガーターをボート置場の上方に十五メートルと長くとしたので、出港と入港のボートが混雑し合っても一度に三艇まで並べることが出来ます。看板のところまで十八メートルあって、ガントリーは「コ」の字形にして手前が開いているから、ヨットのマストが楽に入ります。一艇のあげおろしに三分とはかからないので夏のシーズンの盛りにはお客さんも井上さんも大助かりです。

以前はマリナーナでは一艇の出、入港に三十分ちかく費やしていたので、これをなんとか合理化したいというのが井上さんの宿願でした。つぎに船台は、井上さんのアイデア設計。三輪車だから操作性が良く、小型ブルドーザーでお客が自分でボートを引き出してクレーンの下まで運ぶことができます。また空の船台はボートとボートのあいだへ突込んで仕舞えるから、場所をとりません。

このマリナーナは去年六月新装オープンしたのですが、それまで井上さんは多度津でマリナーナを営んでいました。いまから八年前、多度津漁協の所有地を借地して事務所を建て、付近の海岸埋立地千五百坪を借りて保管場所

にしたのですが、一昨年この埋立地に工場建設の話が持ち上って明け渡しを迫られたのでした。一時は窮地に追い込まれた井上さんでしたが、奮い立って新しいマリナーナづくりに挑戦しました。

借地ではボート置場に舗装、電気、水道の工事はできないし、またいつなんどき立ち退かなければならないか判らない。やはり自前の土地を持ちたい。父親が農地を売却して資金に当ててくれることを許してくれたのが、決断の契機になりました。丸亀から詫間までの海岸を歩いて、ようやく二、一〇〇坪の埋立地を探し当てました。マリナーナの立地条件として、見晴らしの良いこと、釣場が近くに恵まれていること、水がきれいなこと、冬の西風がさえぎられる穏やかな水面であること——を絶対条件としましたが、ここはその全てを満たしてくれました。

ポンツーンを敷設し、護岸壁を切って出入口をつくること、この二つを実現するためには漁協の同意書を得るとともに、それを携えて県庁へ行き、マリナーナ施設による海面および空中の使用許可ならびに施設(クレーンとポンツーン)の設計承認を受けなければなり

ません。このために井上さんは県の土木課へ十回以上足を運びました。

「法律に関する手続きというのは複雑でややこしいのですが、この八年間マリナーを経営してきたあいだに蓄えた知識と経験のおかげで、最後まで自分でやりとげることができました。マリナーをしていると、色々なお客さんとの人脈ができて、何人も貴重な助言を下さるので、これが有難かった。わたしも勉強しました。おしまいに、果の担当者が、あんたもよく勉強したね、とほめてくれました」

一八〇〇坪のボート置場に現在一二五隻を収容中。満杯になるまで、あと数十隻は入りそうです。鉄骨ブロック造二階建てのクラブハウスは延六五坪で、内部は事務所、キッチン付クラブルーム、集会場、宿直室（和室八帖と六帖）、バス、トイレがととのっています。バス、トイレは、どちらも男性用、女性用を二つずつ作るという心遣いが見られます。お客さんが心から寛いでくれるマリナーにしたい、クラブハウスを自分の別荘のように気軽に使って欲しいというのが、井上夫妻の念願です。そのためには設備をできるだけ合理化して、人手をかけず家族経営でやっていける体制にして、お客さんの経費負担を小さくおさえるという方針。眼の前には、備讃瀬戸の島々のちらばる天下一の釣り場が広がっています。じっくり構えて、クチコミで良いお客さんが一人ずつ増えてくれるのを待ちます、と井上さんは語っていました。

地元漁業者との融和を旗印に しかもレジャー拡販の実を上げる

●宮川小型船舶／宮川喜伝次さん 熊本県水俣市ひばりヶ丘



静かな入江の奥に、岸から二本の浮き桟橋が延び、二十隻あまりのボートがもやわれていきます。また、引上げ台車付きスロープが設けられていて、陸上に漁船数隻があげられていました。

半分々々。マリナー保管料は一隻につき年間五万五千円です。マリナーに浮桟橋を設置するについては、漁業権を所有する漁協とのあいだに水面利用に関する同意書を交わさなければなりません。地元の水俣市漁協、津奈木漁協とそれぞれ円満に話をつけることができました。と言うのも、宮川社長らは地元漁業に対する積極的な協力姿勢を示したからです。奥深い入江なので、台風ときはマリナーが小型漁船にとって絶好の避難場所になりま

す。また、スロープは主として漁船の上架補修や船底掃除のためにつくりました。レジャー船の稼動するのは三月から十月までの半年間ですが、漁師さんが気軽に船を持ち込むので、マリナーは年中営業しています。レジャーボートの係留地の秩序づくりを旗印にかけ、レジャーと漁業の融和ということを心掛けて発足させたマリナー経営でしたが、マリナーが拡販ツールとしての強味を發揮し出したので、六年目に入って独立採算がとれるようになりました。年間にレジャー



マリナー建設以前の入江の風景



宮川社長(右)と鎌田秀明さん(まん中)。左端はお客様



事務所と整備工場

この水俣マリナーは昭和五十五年二月につくられたが、それ以前、このあたりは写真に見るような「無人境」だったのです。個人の畑であった六百坪の土地を買い、渚を掘り下げて石垣をつくり、小学校の取りこわされた木造校舎の廃材を譲り受けて、五十坪の集会場付き事務所と整備工場を建設しました。土地代を含め約二、三〇〇万円の投資でした。三十歳のとき資本金三千円で二輪車を開業してから、その後四輪車ディーラーとして事業を開展させた宮川社長ですが、十五年前にヤマハ船外機の販売サービスを開始し、五十五年マリナーを完成させると、それを契機として一事業部門としての「宮川小型船舶」を発足させ、ボート、漁・和船、船外機、ディーゼルの販売に本腰を入れるようになったのです。その背景について宮川社長はこう語り

「マリナー事業をここまで大きくしたのは、わたしが天草の漁師の家に育って子どもの時から大の釣り好き、ということがありますが、しかし根本は、鎌田秀明君という「人」を得たことに負っています。彼はウチへ入ってそろそろ二十年になるが、最初から一貫して船外機とディーゼルの修理に責任をもってくれました。それも、ただ手を動かして働くだけではない。昔、地元の漁師さんから船外機の修理を持ちこまれて、それが何回か重なったときに彼は、船外機はこれから商売になるからやらせて欲しいとわたしに言ってきた、このマリナーをつくるのも、あちらこちらの漁港にレジャーボートが割り込んで係留され出したのに鎌田君が眼をつけて、いまにレジャー専用のマリナーがきつと必要になる、と強く進言してくれたのでした」

水俣マリナーのお客は八代・水俣の海岸線を中心にして、遠くは県北の菊池や山間部の人吉まで広範囲に分布しており、マリナーの吸引力の強いことを示しています。三十代、四十代の人々が主で、サラリーマンと自営業が



小さいながらもインターナショナルなマリーナづくり

●ピーチス・マリーナ／高橋幸吉さん 静岡県引佐郡三ヶ日町

ボート十四〜五隻、F-22〜24を五〜六隻販売しています。
保管艇は当初八隻だけだったのが現在二十八隻になりました。現有施設で五十隻までは収容できます。当面の課題はディーゼルエンジン整備工場をつくることですが、これも小

学校の体育館の古材百坪分を買い受ける話をつけてあるので、ここの春に建設にとりかかる予定。ゆくゆくは鎌山さん一人では手がまわらなくなるので、マリーナにもう一人見習いを採用しようという宮川社長は考えています。



浜名湖西岸の小さな半島にあるピーチス・マリーナ―昭和五十九年はこのマリーナを営営するハーバースター高橋幸吉さん(34歳)にとつて最も記念すべき年となりました。

というのは、

この年十月三日〜十三日の十一日間、このマリーナを会場として、「一九八四年国際モス級世界選手権ヨット競技大会」が開催され、「小さくとも広い視野を持つ国際的なマリーナをつくりたい」という野望を秘めて独立自営を始めた高橋さんの、宿願の一つが実現したからです。

浜名湖はマリレジャーを楽しむには、はなはだ立地条件に恵まれているので、湖畔には大小十二のマリーナが営業をしています。そして水面利用が多彩であり、それぞれのマリーナが①釣り主体、②大型ボートおよびクルーザーヨット、③中型ボート、④ディングーおよびボードセイリングと、いずれかの



国際モス級世界選手権大会の懇親パーティーにて、

特色を打ち出して専門化し、分業体制をつくり上げているのが大きな特徴です。

元はヤマハマンでヨット開発部門に十年間在職した後独立した高橋さんは、ヤマハでは「470選手」としても大活躍しました。モーターボートを扱うが営業不振で開店休業状態にあったマリーナの土地と建物を借り受けて、ディングー主体のマリーナに装いを改

めて見事マリーナに息を吹き返えさせたのは、ヨットマンとしてのキャリアと見識がモノを言ったからでしょう。現在、約四〇〇坪の置き場にディングー一二〇艇、ボードセイリング八〇艇を収容し、会員制ヨットクラブの体制をとっています。高橋さんが現役時代に培ったヨット界の厚く、広い「人脈」が各種イベントの誘致を成功させ、クラブに大きな魅力を与えています。

それがマリーナ経営の維持と成長の支えになると高橋さんは考えています。「最初は会員のヨコのつながりをつくるために、小さく、実に色んなイベントをやりました。対岸までの片道レースとか、親睦パーティに力点をおいたお花見レースとか、はては湖岸一周サイクリング大会とか…。そのうちにヨット主体のイベントに的が絞られるようになると、こんどは他地区のマリーナとの交流をはかることや、ナショナル・イベントを誘致することにも力を入れるようになりました」

会員が最大の満足感を引き出し、そしてクラブに誇りを抱いてくれるマリーナづくりを



「1984国際モス級世界選手権大会のムズラ、高橋さん」



「1982年、全日本マスターズ選手権大会」

高橋さんはいつも心にかけています。十二月から三月までの冬場は、高橋さんの「充電期間」です。

「海へ出ないと身体がナマって苦痛ですが、この時期は来るシーズンにそなえて必死に考えて企画を考えます。自分で考えるだけでなく、あちらこちらの仲間を訪ねて情報を集めるのです。去年はグアム島のマリアナス・ヨットクラブというところへ遊びにいってき

ん勉強になりました」
例年、三月の下旬に会員の各クラス代表のセイリングスタッフにマリーナへ集合してもらい、一年間のイベント計画を煮詰めますが、それが決定するとすぐに会員全部へ会報を送って、さあシーズン開幕です。

ました。施設はいたって素朴だけれど、クラブの内容が実にいい。四十代、五十代の人たちが若者たちといっしょになって遊んでクラブを盛り立てています。オトナの社交場といった風格がつけられています。たいへ

’86東京国際フィッシングショー 強まるスポーツフィッシング指向

ボートフィッシング人気ますます上昇

〔東京・晴海見本市会場〕2/14～16



恒例の東京国際フィッシングショーが東京の晴海見本市会場で開催されました。今回で26回を数えるこのイベントは、春を告げる催しものとして定着し、多くの釣りファンの人気を集めています。出展社数は120余にも及び、なかでもバスフィッシングやフライなどのゲーム・スポーツ指向の釣りが注目を集めていました。

*自然を感じさせる展示がひととき目立って熱気があった(ヤマハコーナー)。



海外では人気バツグンのバスタブ・レース

風呂桶(バスタブ)に船外機を付けて走ったらどうなる。ちゃめっ気たっぷりのボートファンの発想から始まった、バスタブ・レース。海外ではその歴史も古く、人気も高いのに、日本に紹介される機会が少ない。

昨夏、カナダのバンクーバーで行われた、そうした珍しいレースの写真とレポートを入手したので、ご紹介します。コースはバンクーバー島のナナイモ市からバンクーバー市までの海上54km、数十隻が参加し、ヤマハ船外機8Cをつけた「ブートレジャー号」は健闘2位でした。

ルールの主なものは、使用するバスタブ(形状が類似していれば可)のサイズは、縦109.7cm×横50.8cm以上。バスタブにトランサムを取り付け、それに直接エンジンを付けること。エンジンは市販の標準型8PS以下。スパークプラグ、プロペラ、プロペラナットの交換、変更、ローケースの形状変更(内部パーツの変更は不可)のみOK……と、なかなかキビシイ。バスタブ・レースはかなり大きな波を乗り越えなければならず、ドライバーの度胸がモノを言うレースです。

浜の歳時記

浜祭りは、神を仲立ちとして漁のとり決めを行う場でもあった

豊漁や海上安全を神に祈願する行事は、浜祭とか磯祭、あるいは漁祭、潮祭などの名で、昔は全国津々浦々の漁村で定期的に行われてきたもの。弥生・三月は、そうした祭の季節でもある。

宮城雄太郎氏の「漁村歳事記」(北斗書房)によると、——京都府宮津市の漁師さんたちは、毎年3月10日を浜祭の日として、その日にはめいめいが重箱に肴を詰めて、氏神社境内の恵比須神社の前に集まり、神主さんのノリが終わると、境内にムシロを敷いて、春漁満足の予祝の宴をひらき、このときに春漁の當みの方法やアオリイカ網の引順を抽選できめた——とある。

ようよう春めいた裏日本の、いかにものどかな春祭の光景が目に見えようだが、この祭には、神を仲立ちとして漁のとり決めを行う、という、厳しい一面もあわせてもっていたようだ。

あなたの浜の、特徴ある「浜祭」もぜひ教えてください。

新刊紹介 『ボート釣りのすべて』

石井冲芳著 西東社刊



著者は1947年東京都生まれ、のちに千葉県に移る。祖父に釣りの手ほどきをうけ、小学生のころより釣りはじめ、漁師の子供たちと一緒に、浜で釣りを楽しんだり、漁船に乗ったりする。

1972年に(財)日本モーターボート協会に入り、同78年、運輸大臣認定小型船舶操縦士実技講師となるなど、モーターボートのキャリアも大したもの。著書に『目で見えるモーターボート教室』舵社刊もある。

手漕ぎのローボートの操船のほかにも、モーターボートの操縦にもふれ、ボート・フィッシングにトローリングも含めている。内容は——釣りとはボート、対象別ボート釣り、ボート釣りのマナーと安全対策、附録として、ボート免許のとりかた、ボート用語の解説——漫画チックな挿絵を使った解説が楽しい。

▶お問い合わせは、最寄りの書店または、(株)西東社 〒101 東京都千代田区神田錦町3-15 ☎03(291)5815

八丈島ビッグフィッシングツアーご招待者決定!

第8回'85ヤマハボートフィッシングコンテスト

第8回ヤマハボートフィッシングコンテストは、開催大会数延べ110会場、参加艇数1,947隻、参加者数4,604名と大盛況のうちに幕を閉じましたが、そのなかから選ばれる八丈島ビッグフィッシングツアーへの招待者は、抽選の結果、下記の32名の方々に決定しました。八丈島ツアーは5月8～10日の3日間、服部名人とともに挙行されます。

●ご当選32名さま。(敬称略)

ブロック名	ご氏名	ブロック名	ご氏名
北海道	河西 春雄	関西	池田三好 三島 清
東北	庄内 勉 針生 邦夫 相沢 忠夫 佐藤 澄雄	中国	川西 紳介 小川 通海 宮沢 悟 泉 俊夫
中部	鈴木 茂典 鈴木 寧 藤江 和雄 持塚 秀司 岩沢 正良	四国	門田 栄治 中西 秀雄 山分 正己 富岡 清一
		九州	浦口 幸太郎 玉田 郡次郎 小森 喬 松田 政彰 真方 準一 梅崎 海南
関西	福井 淳一 東 健二		

頼もしい相棒 **NEW** 3機種

魚群探知機

クラス最高の分解能の6インチブラウン管を使用



YFV-100

No.90790-40003 ¥118,000

●ブラウン管：6インチモノクロ ●測深範囲：0～200m
オートレンジ ●周波数：200KHz ●送信出力：150W ●電源：DC12V、1.2A ●W220×H201×D213mm ●3.1kg



この画面は本機内蔵のデモ用画面ですから
実際の記録画面とは異なります。

YFV-200

No.90790-40004 ¥148,000

●ブラウン管：6インチモノクロ ●測深範囲：0～200m
オートレンジ ●周波数：200KHz ●送信出力：150W ●電源：DC12V、1.2A ●W220×H201×D213mm ●3.1kg



YFV-300Cカラー魚探

No.90790-40005 ¥178,000

●ブラウン管：6インチカラー ●測深範囲：0～200m
オートレンジ ●周波数：200KHz ●送信出力：150W ●電源：DC12V、2.0A ●W220×H201×D285mm ●3.2kg

特 徴

●高解像度ブラウン管

クラス最高の分解能を持つ6インチブラウン管を使用。256×256ドットという高い解像度で小さな魚影を鮮明に映し出します。YFV-100・YFV-200はモノクロ、YFV-300Cは8色表示のカラーブラウン管を採用。

●測深オートレンジ

0～200mまでの範囲を10m単位で自由に設定可能。どんな水深レンジも自由自在です（自動・マニュアル）。

●水深スケール表示

タナの深さが一目でわかるスケール表示。画

面を4分割して水深とスケール表示をします。スケールラインのON-OFFは自由ですから必要な時だけ表示できます。

●座礁アラーム・アンカーアラーム

2～200mの範囲で任意の深度を設定すれば、それより水深が浅く（深く）なったときアラームが鳴り、知らせてくれます。

●STC(表層除去)

表層のプランクトンやゴミなど、余分な記録を取り除き、魚群の映像のみをクリアーに表示します。

●干渉防止

常時作動し、他船魚探機の影響による画像の乱れを自動的にシャットアウトします。

●YFV-200の機能・特長

- シフト機能=キーの操作で、1mづつ水深レンジを上下にシフトすることが可能。
- 自動画像送り=船速に合わせ画像も自動的に速度調整。手動では停止と8段階設定。
- 海底の走行距離目盛表示
- 水温デジタル表示
- 航行距離表示機能
- 残り距離表示機能・アライバルアラーム
- 船速表示



ポーティングのバッグは色鮮やかな セイリング・バッグを

ほんのデイ・クルージングのつもりでも、海に出かけるお客さまの持ちものは、“晴れても雨仕度”、“夏でも冬仕度”と、いつも結構多いものです。

それを色鮮やかなバッグで、ひとまとめに面倒を見ちゃうのが、ヤマハから新発売されたセイリング・バッグ(A) No.90790-68001 ¥7,600

素材はターポリン・ラバーウイン・サイズは580×340×270mm。荷物の出し入れが楽なWスライダーつき、中味の大小にかかわらず、型状がいつもスッキリ、といろいろ工夫が凝らされています。



海の幸バーベキューを楽しむ マリン・バーベキューセット

ポーティングの楽しみを倍加させる小道具にもいろいろありますが、現地調達の新鮮な海の幸を目の前で調理する、シーフード・バーベキューの楽しさはひとしお。

このほど、ヤマハから新発売された、マリンバーベキューセット（写真①本体+②ブラケット）No.90790-45006 ¥45,700は、そうした海のグルメのお客さまへのオススメ品です。

オプションで写真③のような、フロアスタンド No.90790-45007 ¥4,800もあります。



爽快な走りと大釣果が期待できる 快適17フィート



すぐれた乗り心地と操縦性で釣の醍醐味を満喫させる釣りボートです。ステアリングボックスを標準装備して快適な走行性能を追求しました。また、大きな釣果に応えられるよう横2連のイセスハッチを設置。さらにデッキスペースは家族や釣り仲間みんなが楽しめるよう、安全性を考慮したフラットなデッキ面としています。

- 船首形状のV角度を強めにし、フレアーに張りをもたせて凌波性と安定性を高めました。
- 40馬力までの船外機に対応。モーターウェルが波の打ち込みを防ぎ、ステアリングボックスが的確な操船を可能にします。

- 船体中央部に仕切板を設けた横2連のイセスハッチを設けました。



- 艀装が容易

易にできるセミダブルスキン構造。またガンネルへの艀装がしやすいように、コベリに開口を設けました。

- スターン物入れはバッテリールームとタンクルームをそれぞれ独立させた2分割式。

ヤマハ釣船 UW-17AHS



主要諸元

全長	5.20m
全幅	1.64m
全深さ	0.65m
艇体重量	280kg
最大積載量	530kg
呼称最大馬力	リモコン40馬力
連続最大馬力	リモコン40馬力
トランサム	L
定員	5名
航行区域	限定沿海
予備検査	全数受検

養殖プラス雑漁用の余裕ある積載力 磯漁にも適した軽便な取りまわし



- 各種の養殖ならびに雑漁用として従来のJ-23BRをひとまわり大きくし、しかも船型性能の向上をはかりました。軽く操船できる取りまわし抜群の船型。磯漁にも適しています。
- すでにJ-23BRで定評をいただいている後進性抜群の出帆タイプ
- 安定性と荷受け性能がぐんと増しました

※注) 本艇は現地追加艀装による排水量増を前提とした保証馬力となっています。軽い状態での40馬力による操船は危険なので30馬力以下を推奨します。

- 凌波性にすぐれるだけでなく、乗り降りに便利なスクウェアパウ
- 浜上げは、艀上げ、艀上げどちらも可能です
- 船外機を保護し、点検を容易にする箱艀仕様
- 艀装しやすいハードガンネル
- 脱着タイプの艀台なので現地艀装が容易
- パウ物入れを標準装備

万能型J和船 J-25AR



主要諸元

全長	7.52m	
全幅	1.70m	
全深さ	0.63m	
総トン数	0.7トン	
艇体重量	320kg	
最大積載量	800kg	
最大保証馬力	マニュアル	40PS※注
	リモコン	40PS※注
トランサム	高さ	0.50m
	仕様	LL
定員	(7名)	
航行区域	(限定沿海)	
予備検査	ナシ	

()内は計画値です。